

パリ第6大学での滞在を終えて

物理工学専攻 D1 橋本 洋輔 (古澤研)

ALPSの海外派遣制度を利用し、パリ第6大学(ピエール・マリ・キュリー大学)のJulien Laurat研究室に2015年9月7日から12月2日までの約3ヶ月間、滞在し研究を行った。

Julienの研究室では光を用いた量子情報処理について研究を行っている。ここで私はマクロなシュレディンガーの猫状態とミクロな単一光子状態がエンタングルしたハイブリッドエンタングルド状態の生成実験に、博士学生Adrien Cavailles氏、Hanna Le Jeannic氏と共に取り組んだ。研究室のメンバーは非常に気さくで、すぐに打ち解けることができた。ここでは超伝導単一光子検出器(SSPD)など、普段の研究では使用しない装置の扱いを学べたほか、研究スタイルや余暇の過ごし方等、短時間の訪問ではわからないリアルな海外の学生生活を体験することができた。滞在期間中、パリで同時多発テロが発生したが、大きな影響もなく無事に帰国でき安堵している。



Julien Laurat 研究室のメンバーとの集合写真 (セーヌ川のほとりにて)